

着心地評価のための上半身可動性被服圧計測用ダミーの試作

研究代表者 鳥取大学 伊藤 紀子

この研究では、着用感のよい男性用スーツ上衣を設計するために、15着のスーツについて10名の被験者及び独自に開発した上半身可動性ダミーを用いて測定した身体6部位の被服圧と着用感の面から検討している。立位正常姿勢（立位）と前挙90度（前挙）の両姿勢ともに、総合的着用感は動きやすさ及び身体各部位の被服圧（圧迫感）との間に有意な相関が認められ、着用感の良いスーツは動きやすいことと被服圧が低くて圧迫感の小さいことが重要であることがわかった。着用感が悪くなる場合、被服圧が特に高い部位は、立位では肩先部であり、前挙では前上腕部と後ろ付け根部であった。本研究では3種のダミーを試作して実験に用いており、被服圧受圧面の圧縮特性を考慮することの重要性も明らかとなった。今後、着心地特性をより正確に評価するため、試作ダミーを人体に近い圧縮硬さにするとともに形状、動きも含めて、さらなる改良・発展が期待される。



着用感の良いスーツは動きやすく圧迫感が小さい。

